

みなさんは、文具や雑貨が人気でアニメ映画にもなった「すみっコぐらし」というキャラクターをご存じですか？

メンバーは、寒がりな北から逃げてきた「しろくま」。自分がペンギンかどうか自信のない「ぺんぎん?」。恐竜の生き残りがばれると捕まるので、トカゲのふりをしている「とかげ」。ナメクジだけどカタツムリに憧れて殻をかぶった「にせつむり」。いつか花束にしてもらうことが夢の「ざっそう」等……。生きづらさを感じている彼らは、部屋の隅っこにいるとなぜか落ち着くと言います。

先日、何気なくテレビをつけたら、「病院ラジオ」～依存症治療病院編～という番組が放送されていました。それは、お笑いコンビ・サンドウィッチマンさんが、患者やその家族から普段なかなか言えない本音を聞き出し、それぞれの思いをリクエスト曲にのせて届けるというドキュメンタリー番組です。その中で、私が特に印象的だったのは、ゲーム依存症で治療をしている青年でした。彼は、「ゲームをやらないと体が震えたり眠れなくなったりする」「一番ひどいときは、5日間寝ずに食わずにゲームをやり続けた時がある……」などと、話していました。さらに、彼がゲーム依存になってしまった理由について、「学校でも家でも、居場所がなかった。だけど、ネットゲームの世界だけは、唯一自分の居場所だったから……」と、話していました。

私はふと思いました。『居場所』とは、いったい何なのだろう。場所があればそこが居場所になるのか? いや、本当なら、学校や家庭に『心』の居場所があれば、子どもたちは、安心していられる。『心の場所』を求めているのだよな」と……。

さて、話を「すみっコぐらし」に戻します。職場の同僚にどのキャラクターが好きなのか聞いてみると、「う～ん、『えびふらいのしっぽ』かな? いや、やっぱり『たぴおか』の方が好きかな」「私の友達は、『とんかつ』が好きって言うてる」「『ねこ』がいいかな?」などと、それぞれ好きなキャラクターを教えてくださいました。「すみっコ」たちに共感している大人は、思った以上に多くて驚きました。ぬいぐるみなどが一緒に居場所にいるだけで、大人であっても癒される時もありますよね。

今回取り上げた話題から、子どもたちにとっての居場所は、「心」の居場所でもあるということをお忘れず、本当の意味での居場所を我々大人がつくっていかねばならないと改めて感じました。

東日本大震災の「あの日」から9年。そして、新型コロナウイルス感染症対策で先の見えない今、まさにそうした大人の対応が試されている時なのではないでしょうか。

いずれにせよ、居場所を見失った誰かが隅っこにやってきたら、「すみっコ」たちのように、そっと隣を空けてあげられる・・・そんな社会でありたいものです。【A】



〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)）

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索